

簡帛

拾五

信十五

御觸書

寛保集成

十五

内閣文庫	
番號	和 32663
冊數	27(15)
函號	特 36 3

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

1 : 2 8

地震之類

一 地震之為家法休日數之事

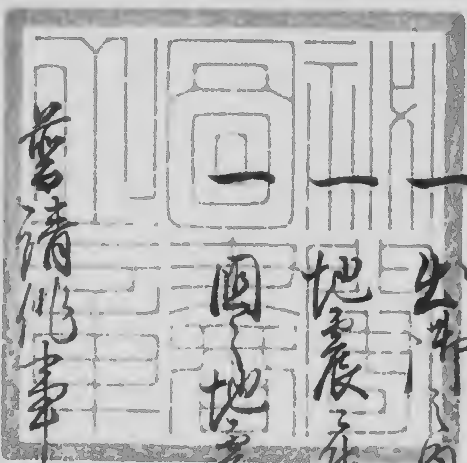
一 同日之震沛者不法所之在否者之事

一 地震火事之対法職人亦之震沛成否之不善造繕各

一 出所之月地震之良之退沛場不之事

一 地震身虚況中觸り之事

一 圓地震身諸色之查且町合法及夜類事



昔清作事其上水道ホ之類

一 水漏水乃長屋塙右垣腰板在夜未築之事

- 一 沖用付の宅地は石上面の二科は
- 一 古橋布の面は不勝と付法令は
- 一 屋作の類は其地盤外は屋作は納付は
- 一 格別、沖有る布衣は以下は及重者元法令は
- 一 長福其外は
- 一 法備代小給、半法故金以下長福者は
- 一 類火の面は法備米は越米は度は
- 一 返納米は面は
- 一 根津権現社沖用付の屋敷上の面は
- 一 上納金法備也は
- 一 言及金万石以下上納は方
- 一 洋備金銀上納沖用捨
- 一 本年以來、度以上は不焼多石以下洋備
- 一 此以後同の解
- 一 上ノ米は 仰付系勤沖用捨等
- 一 系勤沖用時
- 一 屋敷法備類、家地、若者切米
- 一 使用法備、拂代金納方
- 一 法奉公法備、側元始
- 一 舊町筋類、者、借

- 一 小給之者に法増了り下之事
- 一 四谷年込法門色取火其外之面より作仕方存儀未之事
- 一 且西谷年下上之面より料取下之事
- 一 水乃橋外小石川より向道尾好借
- 一 日光 御社奉り付法借之面より金銀等
- 一 岩西院町元山王より類焼尾好借小川町迄同の
- 一 甲府勤善川越間より類焼尾好借
- 一 諸人勝手向難儀存借金取利分減法法借納用捨
- 一 享保三年上々米湯用捨系親三又智前より色
- 一 下谷七軒より類焼尾好借並儀未より儀未

- 一 米下車より法借儀未より儀上納法法礼勤其外
- 一 年込法門外より類焼尾好借並儀未より儀上納法法礼勤其外
- 一 法借上納法法より法儀未より儀未
- 一 法儀未より法儀未より法儀未より法儀未より法儀未
- 一 西國より中國筋出附存法借法法令渡方方若以同の上納方未
- 一 法借金上納法延願儀
- 一 日光寺より向法儀未より法儀未より法儀未より法儀未より法儀未
- 一 領分出附存法借金上納法儀未より法儀未より法儀未
- 一 日光法法人共固行存法儀未より法儀未より法儀未より法儀未
- 一 神田外より尾法借柳外下谷色法儀未より法儀未より法儀未

- 一 系於町東の初等白後地定より下
- 一 出附有洋備令返納方亦之後不納有在
- 一 柳原元松松野寺外尾洋備有故道同所
- 一 本町住宅輩二在住宅より上水附洋備有未其洋備
- 一 傾分出水抜毛之面より洋備令
- 一 関東洋備別出水之方有以下より洋備令并出孔動

地震之動

元禄十六未年十月

今度地震之自分屋在自家河内面之類火之白
休の日數之申分休可申以上

同日

後地震之屋之御番取并相法席之りも不若条
向方之御座之屋之志之思可申以上之御座
在之怪我未仕志不御法一也 思可申

上意之御 實申在合布衣以上之面之御座
小笠原依渡之傳之志申列在表年考申御座

但計有諸向山法古月身中相達

元禄十六末年三月

一今度地震火事付る所爰試破換或燒去
面々舊蹟依以古法職人亦一處之有急縁
要用派隨爲 沛成及筋不若一糸先板固中并
至勝子次方連、被造作指一相借、有大目付
及中、右左合面々相摸當在、

同十七申年正月

地震之長之免

- 一 大廣間 出沛之時沛白書院之沛庭右仕
面々出、中右爰大廣間之沛庭右仕
- 一 沛白書院 出沛之時八沛黒書院之沛庭
出仕面々出、中右爰沛白書院大廣間之沛庭
右仕
- 一 沛黒書院 出沛之時沛黒書院沛白書院
大廣間之沛庭右向歩次方右仕
- 右之通兼右一右相心以 出沛以前
沛以後之向歩、沛庭右勝子次方右仕

下後公

正月

宝永元申年三月

中後公

一 曰や地震身虚说中阿我輩のりもの儀
 宛前も町中為相觸の如く今以不相触の
 儀程歌も作中觸の如く相觸不履の
 向後名之家之人掛在様との様程も早
 捕し月番の番所の中かお隠す外より

相觸のり名之家之人組近と為越度はるけ有
 急度下下関重以上

三月

同四年十月

一 今度國々地震身虚说高車はる及い未
 車候上り下り小々考冥在いりて居り
 候より飛く之段相背者もはる曲事更
 一 町人を浄法度衣敷着候しは相お望
 希相觸のり過す流物とあらくは相背

おのゝ八人等一石捕拾候上急度可
申付事
十月

普請傳書上水道末之部